

# 弥富市総合教育会議 会議録

日 時 平成27年11月4日（水） 午後1時30分

出席者

【構成員】 服部彰文市長、伊藤昭三教育委員長、奥山 巧教育委員長職務代理者、浅野美喜子教育委員、鈴木由美教育委員、下里博昭教育長

【構成員以外】 八木春美教育部長、五十嵐司朗教育部次長、水谷みどり学校教育課長、安井文雄生涯学習課長、嶋藤真由美学校教育課主幹、柴田寿文学校教育課副主幹

## 1 開会

## 2 あいさつ

教育部長 ただいまより第2回総合教育会議を始めさせていただきます。

初めに、服部市長より御挨拶申し上げます。

市 長 皆さん、改めましてこんにちは。

大変お忙しい中、第2回目の総合教育会議に御参集をいただきまして、本当にありがとうございます。

平素は、皆様方には教育行政のみならず、私ども行政各般にわたりまして大変な御協力をいただいておりますことを改めて感謝申し上げます。

きのうは文化の日でしたが、地域の祭りであるとか、芸能というような古くからの歴史を伝承していただいているなあと感謝しています。また、十四山地区及び社協センターのほうでは文化の集いといったものがあり、市民の皆様それぞれが自分の趣味を生かしながら、一つ一つの作品を皆様に見ていただいているわけですが、本当に皆さん立派につくられて、セミプロ級の腕前ではないかなあと思うような作品がたくさんありました。いろんなものに触れさせていただいたこの1週間だったなあとと思っています。

そして、私が一番思うのは、子供さんたちがそういったことにも興味を持って参加していただいているということもたくさんありましたので、よかったなあとと思っています。

また市の行事で金婚式をとり行わせていただきまして、69組の方に御参加いただいたわけですが、小学生、中学生を中心とする合唱団、ドレミファ合唱団という形で大勢の子供さんたちが金婚の祝いをしてくれたということに対して、本当にうれしく思っています。

さて、本日の会議ですが、第2回目になるわけで、総合教育会議の基本的な考え方につきましては、ことしの7月の第1回目の会議の中において皆様方に御理解をいただいたところがございます。首長と教育委員会が連携して、教育行政の推進を図っていくんだということです。

そして、その大綱の策定方法について協議をいただいたわけですが、大綱の策定については、弥富市の総合計画に照らし合わせながら作成をさせていただくということで御理解いただいたものであります。

今回は、事務局が策定しました計画全体の素案を皆様にお示しさせていただきます。この素案の説明を受けて、大綱の各案を協議してまいりたいと思っています。ぜひ専門性の分野において忌憚のない御意見をいただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げまして冒頭の挨拶にかえさせていただきます。本日は大変御苦労さまでございます。

教育部長     ありがとうございました。

                  続いて、委員長より御挨拶をいただきたいと思ひます。

委員長     きょうは第2回の弥富市の総合教育会議ということで、弥富市の教育の将来展望といひますか、そういったものについてお話し合いができるということ、大変私自身は心強く思っておりますし、うれしく思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

                  教育の仕事は、子供たち自身の将来、夢や希望だとか幸せな生活というようなものの実現を図る、そういった仕事でもありますし、地域や日本という国の将来のいろいろな意味での担い手を育てるといふ仕事でもあります。

                  そういう意味で、私はとても重要でやりがいのある仕事だなあと個人的には考えておりますが、ただ逆に、最近の出来事で、名古屋市の中学校1年生の生徒が飛び込み自殺をしてしまったと。これがいじめかじめでないかというところに、どうもいろいろなところで焦点が行っているわけですが、非常にその辺の判断はこれからの調査を待たざるを得ないところがありますが、子供たち自身の生活はいろいろな意味でトラブルだとか予期せぬことが起きてくる。そういう中で、子供たちの育ちといひますか、健やかな成長を支えていくという難しさもあるなあということをつくづく感じております。

                  名古屋市は一昨年だったですかね、同じような飛びおりの自殺がありまして、その対策で随分いろいろな形で整備をしている。学校の体制もかなり見直されて、いろいろな取り組みをしている中でまた起きてしまったと。いじめの問題だけで済む問題ではないのかもしれないというようなことも感じます。

                  いろいろこれからのことで、それを詮索するつもりはございませんが、いずれにしても学校の施設設備と同時に学校で子供たちとともに活動する人、教師も含め地域の方々も含め、そういった方々の力というものが非常に重要だなあということを改めて感じております。

教育部長     どうもありがとうございました。

                  本日は、市長部局より総務部長も出席させていただいておりますので、よろしくお願ひします。

総務部長     御紹介いただきました総務部長の伊藤でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

                  教育委員の皆様方におかれまして、日ごろから大変お世話になっております。厚く御礼を申し上げます。

                  本日は第2回目の総合教育会議でございますが、前回の第1回目の会議につきましては、市長部局より出席がなく、まことに申しわけございませんでした。今後につきましては、出席をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

教育部長　それでは、ここからの進行につきましては、本会議の招集者であります服部市長のほうよりよろしく申し上げます。

3. 議 題　（1）教育に関する大綱の素案について

市 長　それでは、早速議題のほうに移りたいと思いますので、皆様方の御協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは議題、協議事項1番について、教育に関する大綱の素案についてを事務局から説明してください。お願いします。

教育部長　それでは、教育に関する大綱の素案について説明申し上げます。

資料の1をごらんください。

弥富市教育大綱（素案）ということで、表紙をめくっていただきまして、大綱の基本方針ですが、第1次弥富市総合計画の政策目標であります「人が輝き文化が薫るやとみ」として、人材育成と特色のある文化のまちづくりを推進するものとしたします。

大綱の期間としましては、市の総合計画と整合性を図ることから、平成28年度から平成30年度としております。

次に、基本目標としまして5項目を上げております。それぞれ具体的に説明申し上げます。

1つ目、学校教育の充実ということで、防犯カメラを全校に設置したりとか、トイレの洋式化を50%まで持っていくとか、学校教育の充実に関する市民の満足度の向上を図りたいと思っております。

2つ目に生涯学習社会の形成ということで、施設の利用者の増加、それから生涯学習教室の参加者の増加を図っていきたいと思っております。

3つ目に、スポーツの振興についてであります。体育施設の利用者の増加、体育協会の会員の増加であったり、指導者の育成に力を注いでいきたいと思っております。

4つ目に、文化芸術の振興ということで、文化協会の会員の増加や資料館などの入館者の増加を図っていきたいと思っております。

5つ目に、青少年の健全育成については、青少年問題協議会の活動の充実、推進大会の開催、親子参加型の体験学習の開催などを進めてまいりたいと思っております。

以上が大綱の素案でございます。これについて、委員の皆様の見解を賜りたいと思いますので、よろしく申し上げます。

市 長　御苦労さまでした。

大綱の素案について、事務局からお話をいただきました。

先ほども、挨拶の中で述べさせていただきましたように、この教育大綱は、弥富市の第1次総合計画の政策目標であるキーワードとしては、「人が輝き文化の薫るやとみ」というタイトルではございますが、それに基づく形でそれぞれの基本理念と基本目標を具体的に5項目上げまして、学校教育の充実から生涯学習社会の形成、あるいはスポーツの振興、文化芸術の振興、青少年の健全育成、どの項目もテーマとしては非常に価値あるテーマではないかと思っております。これをしっかりと深みのあるものにしていくことが市としての大綱につながっていくだろうと思っておりますので、御理解もいただきたい

と思います。

そして、この期間につきましては、総合計画との整合性で今現在総合計画としては後期のほうに移っておるわけで、平成30年までの来年度から3年間とするということでございます。

今、説明をしていただきましたけれども、委員の皆さんから何か御質問、あるいは御意見等がございましたらお寄せいただきたいと思います。

どの項目も非常に重要な項目だと思っておりますので、各委員の皆さん、共有化していただければそれでいいかなあとも思います。

委員長 私、総論はこれで非常によく練られているというか、弥富市の総合計画の中にノミネートしておるものがございますので、これをとやかく言う立場ではございませんし、こういう5つの項目を重点にいろんな活動を展開するというについては基本的に賛成と。

ただ、強いて言うなら何か目玉商品があってもいいのかなあ。要するに、弥富市はこれほどすごいよとか、これをすごく一生懸命やっているから子供たちや市民の皆さんがこんなふう生き生きとしていると、こういう目玉商品みたいなものが少し感じられるような、総論の中にそういったものを少し位置づけられると、これが弥富市の一つの特色になって、市民の皆さんにもわかりやすいのかなあということを思いますが、いかがでしょうか。

市長 大変いい御意見だと思っておりますので、皆さんにそれぞれ出していただいてもいいんですが、事務局の皆さんも含めて、そのスローガンの目玉、弥富市の総合教育の大綱はこうだというようなもの。

以前、例えば英語教育をしっかりやろうだとかというようなこともありました。それはちょっと具体的な学校教育の充実という形の中で入っていつてしまうのではないかと思います。今、子供たちを取り巻く環境、そういったところから出してくるといいのでしょうか。

委員 目玉商品になるかどうかはわかりませんが、学校教育の充実に生涯学習社会の形成、ここ2つは絡むと思うんですが、土地柄、防災教育について力を入れるべきじゃないかと思えます。

この大綱はこれでいいんですけど、大綱の枝分かれのところ防災について、学校、社会ともに携えて考えていかなければいけないのではないかと。1,200名の死亡者が出るというふうに言われていますからね。1人でも少なくするための努力を、全市民挙げていければいいなと思っております。

市長 おっしゃるとおり、南海トラフ巨大地震であるとか、あるいは置かれた環境というのは海拔ゼロメートル、マイナスというような状況の中で非常に厳しい。我々行政としても、3本柱の1つとして、災害に強いまちづくりをしていこうとしっかりと市民の皆様にも提言をしているところですので、ある意味ではいいかもしれません。

委員 生涯学習とかで、公民館の教室なんかを利用して、女の子が多いと思うんですけどダンスが結構盛んになっていまして、この間、十四山の文化の集いでも2組ぐら

い発表をされて、すごい楽しそうでした。またなぎなたですか。余り私、詳しくないですが、特養の老人ホームなんかの夏祭りとかでも中学生とか結構参加してくれていますし、文化の集いのときに、すごい立派にやっていただけで、格好いいなあと思って私は見ていました。

市長 ジュウシというキッズダンス、私も見せていただきましたが、すごいお父さん、お母さんも力を入れてみえるんですね。それで、また踊りがすばらしかったです。

また、なぎなたも今、弥富市として国体のテーマでいただいたわけですから、もう一度しっかりやっていると、再活性化していこうと連盟の会長を副市長に任命して、やっていたいていて、大変力を入れつつあるところですよ。

その目玉というか、今委員長がおっしゃるように、ちょっとそれについてはまた協議をさせていただきながら、全体の大綱の素案の中にしっかりと組み込んでいくということでまとめさせていただいてよろしいですか。

他にございませんか。

(挙手する者なし)

## (2) 意見交換

市長 余りほかの自治体の参考ということじゃなくて、弥富市独自のものをみんなの意見を出し合って決めていけばいいと思うんですよ。もしくは、学校長等、教育関係の人たちと御相談をいただくとか、そんなような形で決めていったらどうかなあと思いますので、ひとつよろしく願いいたします。

それでは、議題を進行させていただきまして、意見交換ということで、日ごろの教育に対する思いとか、教育委員の皆様のご自由な御意見を述べていただければと思っております。そういったことが全体の教育大綱そのものに対して組み込まれていくものであってもいいと思いますし、また改善というか、次年度から具体的にこういう形で変更していったらどうだというようなことでも結構でございますので、それぞれの最近の教育に対する思いを御意見としていただければと思います。

まず事務局として、例えば学校だとか、あるいは小・中学校長を含めて、こんなような意見をいただいているというようなことがありますか。

教育長 日の出小学校、弥富中学校は、すばらしい環境ですから、あとの9校を、同じようなレベルではありませんがリニューアルをしたり、トイレの洋式化を含め環境づくりに努めていきたいなと我々も思っていますし、学校現場からの強い要望でもございます。

市としては、長寿命化計画をここ9年計画ぐらいで今立てておりますが、ちょうど9校分になりますが、その辺のめどで財政当局との調整を図ってリニューアルしていきたいなと思っております。環境づくりは、私からは以上でございます。

教育部長 ここ1週間ぐらい、ちょうど各小・中学校の予算要望を聞いてまいりました。

その中で一番多かったのは、今教育長も申し上げましたけれども、環境整備ということについてのいわゆる施設整備、校舎であったり、給食の備品であったり、そういうことについて強い要望が出ております。特に、給食の備品については建物も含めてかなり老朽化が進んでおりますので、高額なものもありますけれども、そういうものの買い

かえをお願いしたいという要望が強く出ておりました。以上でございます。

市長 生涯学習のほう。

生涯学習課長 生涯学習のほうも、基本的には施設の老朽化というのが進んでおりますので、そちらのほうの修繕費だとかがかかさんできています。

体育館を学校開放ということで、各種団体に使っていただいています。そちらのほうもかなり古い部分がありますので、そこら辺の要望も出ています。

市長 具体的な学校教育の関係でどうですか。

学校教育課長 きめ細やかな教育ということで、学校のほうから少人数指導の推進をしていきたいので、市の非常勤講師をもう少し手厚くしていただけないかという要望はあります。

学校教育課主幹 個別の支援を要する児童・生徒さんが年々ふえていまして、支援員さんが各学校に配置されているんですけど、それでもなかなか大変だという声はよく聞いておりますので、特別支援員さんをもっと少しふやしていただきたいなということをお願いします。

市長 個別支援の充実というのは全ての学校から出ていましたね。これは相当窮しているなど私も理解をしていますので、もう少し具体的に学校教育課と詰めさせていただきたいと思います。

当初予算の中で確保していかなければいけないと思っていますので、また具体的にその項目については時間を別途つくって聞かせてください。

今、事務方のほうからそういう御意見をいただきましたけれども、教育委員の皆様方から、委員長。

委員長 皆さん、それぞれの担当でいろいろな要望というのは、本当に目の前のいろいろなことで切実なものがあるなあと思いますが、私自身最近感じていることで、非常にぼやっとしていますが、スポーツの力が人に与える影響というのがすごく大きいんだなあということを感じています。

その例は何かと申しますと、ラグビーのワールドカップで、南アフリカにとっても勝てないだろうと思っていた日本が最後の最後で逆転勝ちをしたと。あの試合を見た者が、ラグビーというものに対して今まで全然知らなかった人が、物すごい関心を持っているいろいろな勇気をもったりとか、活力をもったりとかいうことがあり、スポーツの持つ力というものの大きさというのを私自身も強く感じました。

これは見ているだけでもそうだけど、やって何か成果を上げた、できるようになったということを経験した者は、また違った意味での活力、前向きな生き方みたいなものにつながっていくような気がするわけで、先ほど大綱の中でも話が出ましたけれども、市民全体の活性化というのは、私は教育の分野でいうとスポーツのいろんな意味での普及とか、それを支える施設だとか、それを実感する競技会とか、そういったものを多くしていくことが全体としての市の活性化につながっていくんじゃないか。特に若い世代、中学生、高校生、大学生も含めて、そういった方々の力を結集していけるような何か企画をこれからやっていけるといいのかなあということを感じました。

五郎丸のスタイルだけでも、すごい子供たちに影響力を及ぼしているし、ラグビーというものについては、今ラグビーというものが、タックルをしないラグビーですね。

これが随分人気が上がってきているというようなことも聞きますので、一度そういった対症療法的なことのほかに、新しい企画みたいなものが生まれてくるといいなあということを感じております。

市長 どこかモデルで、中学校でラグビー部を、部活で。

委員長 なかなかラグビーは、中学生ぐらいの体力ですとけがのもとになりますので、そういう直接的なものではなくてもいいとは思いますが、とにかくスポーツに対するいろんな意識というものを何かかんかてアピールしていけるようなイベントなり施設でも整備していくといいなということは思いますね。

委員 先生が言われるとおりで、弥富市の中に県大会規模の大会を催すことができるような施設があれば、自然とスポーツ熱が、地元の子の熱が上がって弥富から立派な人材が育つんじゃないかと思っておるんですがね。

それですので、子宝グラウンドの計画のことを聞いたときに、ああいいことだなあと思いましたが、一朝一夕にできるものではないですので、総合的に計画していただいて、いっそつくるものなら本当に大きい規模の大会が催されるような、子供に夢と希望を与えるような環境を整えていただけるとありがたいなあと思います。

それから、今、トイレなどの社会環境がきれいになっていますので、学校トイレの洋式化5割というのは非常にいい運動だなと思いますし、ぜひ中学校の先生らの職員トイレも、ぜひウォシュレットでないところもあるので、整えて喜ばせてやってください。

市長 これは私もお約束というか、ことしからですけど、3年間で洋式トイレ化50%ということですので、これは逆にスピードを上げるぐらいの気持ちで取り組んでいかなきゃいかん。そしてまた学校の先生たちにおける環境衛生も含めてやりますよ。

委員 部活のことですが、先生によって力の入れ方が違うので、やってほしいお母さんたちはいろいろ先生にお願いしているんですけど、なかなかその声が届かないことがあって、ちょっと寂しい思いをして卒業されていった方も見えますので、先生も大変だと思いますが、家族サービスとかあるので。もうちょっと力を入れてやってほしい部活もあるということを知ってもらえたらなというのもあります。

あと、中学生は靴は白と決まっていたんですけど、弥富北中学校は真っ白なんですけど。弥富中学校の子らは少し色が入っていてもいいというのを聞いて、何か不思議だなと感じまして、統一したらどうなのかなと思いました。あと部活が終わった後に、弥富中学校は体操服から制服に着がえずに体操服のまま帰れるそうで、弥富北中学校は必ず制服に着がえて帰るんです。夏なんかはべたべたのシャツの上に制服を着るので、それが気持ち悪いから嫌だと子供らが言いますが、学校によって違うのが気になりました。

市長 それは、事務局、どうですか。

教育部次長 自分も中学校は11年勤務をしていますけれども、ジャージで帰すということは絶対しません。部活は部活、通学は制服という形でやってきた経緯があります。

ただ、生徒さんたちの実際のことを考えれば、汗の始末が十分できないお子さんもおりますし、実際暑いときですので、今はそういったことがなかなか昔風なことは難しいのかなと思いますね。

今のお話の中で、3中学校あるわけですけども、学校での対応が違うということは、やっぱり今これだけいろんなコミュニケーションがすぐ広がる社会ですので、保護者の方とか地域の方も非常に不満とか、場合によっては不信感というのがあると思いますので、考えられることは、例えば統一というか、同じ方向で3校が進めそうなものは協議してやってやるべきでしょうし、ただ校長先生方とか学校の経営方針がいろんなことがありますので、そのあたりはある程度の差が出るのはやむを得んと思います。

ただ、学校側としては、その辺を生徒ですとか保護者の方に上手にというか、きちんと伝わっていくような説明をしていくということが大事なのかなということを感じます。

市長 先ほど、例えば靴の例一つにしても、弥富北中学校と弥富中学校の話がありましたけど、十四山中学校なんかはどうなんですか。

委員 十四山中学校は白です。

市長 弥富中学校の色がついているというのは、どういう靴のことで、どんな色ですか。

委員 ラインがピンクとか、この間学校訪問に行ったときに、昇降口を見たときに真っ白じゃなかったのが派手と思ったんですよ。弥富中学校のお母さんに聞いたら、ピンクの色線がついている物を履いていっていると言っていました。

市長 それで、例えば弥富中学校の場合は、その色がついているというのは全員ではないわけですか。白の靴もあれば、そのラインがついている靴もある。

委員 基本は白ベースで、色がついていても大丈夫ということを書いていました。

市長 その辺はどうなんですか。それぞれの中学校で統一できればいいということも言えるでしょうね。

委員長 難しい問題だと思いますけれども。基本的に、規則というのは大綱なんですよね、まさに。細かいところまで全部がなじがらめに決めると、なじがらめに守らせなければいけない。そういうところが非常に裏表があるわけですよ。

子供たちが本来は自分たちで、みんなで話し合っただけでルールを決めるというのが一番いいと思うし、それが一番守れる、いわゆる法を遵守するという考え方もそういったものが大事だと思うんですけどもね。先生が、こうやってこれにしなきゃいかんという形で、力で押さえ込んでやっていくという方法だけでは難しい部分があると思うんですね。

だから、学校によってそういうものについて生徒会が話し合っただけで、ここまではいいぞと。これ以上はいかん、ここまでは絶対にみんな守ろうじゃないかといって決めたものであれば、それを先生が、絶対そんなもの色が入っておってはいかんぞということが教育的かどうかというのはわからないんですよ。そこら辺は、一度当事者の方々に聞いてみないといけないし、靴だとか帰りに制服を着て帰るとするのは非常に外で目につくから、例えば教育の授業だとか、学校生活の中でいろいろあることも全部学校をそろえるということはなかなか難しい部分があって、だから学校長が自分の責任において、いろいろな形で子供たちの様子を見ながらコントロールしていくというんですかね、先生方と決めていくわけですので、一概に全部そろえるといいという発想で、昔はやってきたんですけどね。これからはなかなか難しい部分がある。

市長 それは、3中学校細かいところをいろんな形で対比していったら、相当の違いがあ



るでしょうね。

教育長 かばんもあります。

委員 ある程度、かばんだとかジャージだとか靴だとか、PTAも巻き込んで話し合っているといるんです。ですから、PTAの意向も入っていると思うんです。学校だけでは決めていないと思います。

それから、帰りに制服で帰らせるかジャージで帰らせるかというのは2つの価値観があります。学校はきちんとした制服で行き帰りさせるというのが将来的な服装指導にもなるし、社会への責任だという考えが1つ。

もう1つは、今、衛生的な問題だとか、それから着がえていたら時間が遅くなるだとか、防犯のことだとか、そういう価値観のせめぎ合いで職員の中でもいつも4月の職員会で、帰りはどうしたらいいというようなことが議論になっています。

だから、自分のときは、のんびり帰らせるのじゃなくて急がせて帰すというのも一つの訓練だといって、しっかり制服で帰らせておりました。

教育長 弥富中学校も数年前までは制服で帰っていました。最近です、ジャージというのは。

委員 3つとも全部制服で帰っておったはずです。

教育長 数年前までは。

市長 だから、我々の中学校時代だとかは、ほとんど横並びで一緒でした。何でも一緒でした。だけど、それがいろんな時代の変遷だとか、社会的な背景の違いとか、そういうようなこともあってそういうふうになってきたんでしょうね。それは学校が独自のきちんした、皆さんPTAも含めたところで考え方として統一されているんだったら、それもよしとしていかないか今の時代性からすると少し逆行するかなと思います。今委員長が言われるように、あれもこれとにかく統一なんだと。その辺は学校長も含めて、いちど聞いてみてください。

教育長 校長会の折に、その辺もちょっと話題にさせていただきます。

委員 でも、前はもっとばらばらだったけど、テストの日だとかね。それから冬の部活が遅いと、午前中だけだとか。大分統一しましたよね、3中学校はね。

市長 他にどうですか。

委員 通学路なんですけど、安全な通学路ということで十四山西部小学校区の鮫ヶ地とか坂中地の途中までは歩道をつくっていただいてやってもらったんですが、あと坂中地の信号からもう少し、坂中地橋というのがあるんですけど、ほんの短い距離なんですけど、そこがまだ何も手つかずになっていまして、結構坂中地の信号で待つ子供たちのところが狭いもんですから、危ないなということを思っています。

市長 これは、ことし測量いたしまして、来年度の事業予算をつけさせていただいて、あの交差点までと同じ形で歩道設置の両用型でいきたいと思っております。

委員 そうですか。

あと坂中地橋は、何か県のものでしょうか。

市長 橋そのものということですか。

委員 はい。何かそこで工事がやりにくいからという話をちょっと聞いて。

市長 それはないです。

委員 ないですか。あそこだけがちょっと危険かなと。

市長 要するに、手前のところでカーブを少ししているんです。緩やかなカーブがあるので、橋のところはストレートに行けるほうがいいと考え、きちんと測量しましたから、それに基づいて来年それはやりますけど、問題そのものは橋そのものが老朽化していることです。

委員 あの橋も本当にすれ違えにくく、橋のところではお互い譲り合いということなんです。

あとスクールガードという制度があるんですが、それについて老人クラブとかいろいろなところに声をかけてお願いしているんですが、なかなか参加して下さる方が少なくなっている状況がありまして、また声をかけていただきたいなあと思っております。

市長 スクールガードについては、もう一度、学校別に拾い直してください。それでどういったところがうまくいっているのかそうでないのかということ、それぞれの学校でお願いをしていくような形をしていかないと、ちょっと全体的に皆さん、掌握していただければいいけど、もう一度整理しましょうか。

委員 17年度の秋ぐらいから始まっているかなと思うんですが、やっぱり皆さん、子供たちと一緒に帰るのにちょっと責任を感じたり、何かあったらいけないということとか、学校まで歩いて行って、歩いて帰ってこれないという感じで言われたりとかいろいろあるんですが、老人クラブでうまくまとめてみえるところもありますが、ちょっと最近また減ってきていますので、一度声をかけていただければと思います。

委員長 あと1ついいですか。要望みたいなことばかりですが、実は小・中学校の話なんですが、今いわゆる二極化というか、新任の教員あるいは若い世代が多くなったということとはとてもいいことなんですが、真ん中がいなくて年齢の高い方々が両極にいます。

特に、ベテランの方々はそれなりのいろいろな力を身につけて、適切な指導ができる方がほとんどなんですが、新しく学生から入ってきた者だとがなかなか、今親さん方の要望も非常に多岐にわたって、そういったものに十分応えるだけの担任としての力を身につけていない先生方の比率が多くなってきている一つ大きな問題があります。

これが、弥富市の住民の方々是非常に皆さん御理解のある方が多いので、弥富市の場合にはそんなに大きな問題としていろいろトラブルになっていないわけですが、もう少し名古屋市に近いようなところでは、そういった問題が非常にいろんな意味で学校の運営に支障を来すというようなことが出てきているのが現実であります。

それからもう1つは、これもどうしようもないことなんですが、今再任用制度というのが、これは市役所でもそうかもしれませんが、そういった方々の比率がどんどん今ふえつつあると。これは先輩の先生方、校長さんからいっても自分より先輩の方々が学校の中にたくさんお見えになって、そういった方々も含めて学校が運営されているというような時代になってきています。

いわゆる校長が一番上でという形でのいろいろな指揮系統が難しい部分も出てきているという、非常に錯綜としたような学校の職員集団といいますかね。そういったものが出

てきているという現実を踏まえて、今、文科省でもよく、これからの方向性なんですけれども、チーム学校と。いわゆる教員が全てやってきた学校という組織を、そのほかの人たちが支えていくという、いわゆるスクールカウンセラーだとか、スクールソーシャルワーカーだとか、あるいは地域の方々だとか、さっき話が出ていました支援員だとか非常勤の指導の方だとか、そういった方々をうまく取り入れて、チーム学校という形の考え方をしていかないとこれからの学校が成り立たないと、そういう一つの方向性といえますか、これからの学校の現場というものの状況が指摘されていますので、その辺のことも、またこれ結局事務的な措置だとか何かというと金の問題になってくるので、そんなに簡単にできることではないんですが、少なくとも教育委員会のほうでそういったものの多少支援ができるようなシステムを考えていかないと、今までは全て学校の先生が何でもやると。部活もやるけれども、生徒指導もやるけれども事務もやる、修繕もやるという形でやってきたやつを、少し間口を広げてチーム学校という考え方をとり入れていけるといいのかなあということも思っております。

市長 今委員長がおっしゃる教員の二極化というところで、新人と中間のところとベテランという形で、大体年齢層として、各学校どういうバランスになっておるかということ調べる必要があると思います。

委員長 要するに砂時計。真ん中が細くて両方が太いと、いわゆるダンベルみたいな格好。

市長 それに応じた形で、中長期的にはバランスのいい教員のあり方というか、構成のあり方というのが持っていけるといいですね、要望も含めて。

委員長 定数ですから、児童数に合わせた定数配置という形で今文科省から来ているので、人数が多いか少ないかということでやりますので、たくさん退職していけばたくさん入れないかと、こういう形でやって、将来的にもピラミッドのようにするということはなかなか難しいのが教員の配置の一番ネックになっています。

市長 そういうことを例えば、私たちの学校だけで統計的な調査をすることについては、別にやぶさかじゃないんでしょう。

教育長 はい。データはありますから、資料はできます。

市長 例えば、新しい教員さんというのを1年から10年までを一区切りとして、10年から20年までを中間として、それ以上の方をベテラン、30年以上をベテランと言っておいてはちょっといかんかもしれんけど、一度そういうような、学校でどんなような教育構成になっているかというのを私も大変知りたいところですね。

教育長 その辺の資料を各学校別に一度つくってみます。

市長 それで、今砂時計だと言われたけど、中間のところが一番薄いわけですね。

委員長 そうなんです。40代が少ないんです。

これは愛知県というか、尾張地域全体がそういう傾向です。だから弥富市だけの問題ではないんですけれども、それであるがゆえの問題というのが出てくる可能性があるもんですから、そういうものに対応できるだけの準備といえますか、体制をつくっていく必要があるのかなあということは思いますね。

市長 再任用制度は我々行政のほうでも、これは一つの義務化という形になってきている

んですよ。やっぱり年金という問題も含めてですね。それである一定期間をやっていただけで、あと嘱託制度だとか時間給という形の中で変化していくんですけどね。これはどこの行政もそういうような形になってきましたからね。

委員長 これは校長の立場でいうと、非常につらいところがあるんですね。

どうしても一人前の戦力としての扱いがしづらいところがあって、でも定数に入るの、その方々がふえればふえるほど学校は実働部隊が減ってくるという形になる。

市長 我々のところでも、当初は定数管理という形でありましたけど、結局それが再任用という形の中で、数がいろいろな形でバランスが変わってくると定数管理そのものがおかしいんだということになってきてましてね、行政は。今、余り国のほうは定数管理、定数管理と言わなくなってきたんです、逆に言うと。

委員長 退職後1年間は年金が支給されないですよ。たしか来年からは2年になりますよね。そうすると、1年だったら我慢して何とかつなごうというところがあるんですけど、2年、3年になってくると、もう収入なしではおれんということで、フルタイムの仕事をしたい。今までは、大体再任用というのは半分といいますか、2人で合わせわざ1本という形になっていたんですけども、これからはそれがフルタイムでやるというようになりますと、その比率はまたもっとふえてくるという、これから展望としては非常にその比率が高くなっていくという現象が出てきますね。

委員 再任用の先生がフルタイムやられたら、若い先生が入ってこれない。

委員長 今度は、間口が狭くなってしまうというかね。だけど、それは制度だからどうしようもない部分がありますので、それを補完するような手だてというのを考えていかないと、学校全体としては非常に戦力ダウンになってしまう。

教育部次長 今回の再任用のフルタイムの話が出ましたけれども、教育事務所の方向性として、そういう御希望の方はできるだけ退職をされた現任校でお願いしたいと。

と申しますのは、他校にどんどんそういう方が行かれると、受け入れるほうとしては60を過ぎた方が欲しいという学校は、申しわけありませんが、そうはないもんですから、ぜひ御自分の学校で御活躍の場をつくってくださいということなんで、これもまたそういった問題も実はあったりして、ましてや立場のある先生が再任用になりますと、例えば役職者の先生が今度は一担任になってしまいますので、恐らく子供たちや保護者の方も何でそんなふうなのかと、ちょっと微妙な不安も出ますので、いろんな問題を含んでいるかなあということも思います。

市長 ありがとうございます。

他にございませんか。

(挙手する者なし)

市長 またありましたら、また事務局のほうにもお知らせをいただきたいというふうに思っております。

いろいろと環境整備の問題から各小・中学校での予算要望、こういったことについて、老朽化ということに対してもあるわけでございますけれども、それから委員長のほうからは教育の中におけるスポーツの力というのが非常に大きな役割をますますしてくるよ

ということだとか、学校の教員の二極化ということについて、そろそろ自治体というか、我々としての意見をしっかり持たなきゃいかん、考え方を持たなきゃいかんということの御意見等もございました。

こういったことにつきましては、一度またまとめて、それぞれ皆さんのほうにお聞きいただきたいというふうに思っております。

全体を通して何か。

(挙手する者なし)

市長 私の方から、最初のところで言えばよかったかもしれませんが、この素案ということに対して、ぜひこれから特に力を入れていく道徳というようなところについても、「徳」という形のものを入れていただきたい。

だから、学校教育は知識、そして体力、そして少し忘れかけている道徳と、こういったようなことについて、これはテーマでなくてもそういうことを重視していく総合教育という形ものをぜひお願いしていきたいなあというふうに思っています。

今までも学校の子供たちの知識、体力が落ちているということに対しては文科省からもいろいろ指摘されているところがございますので、やっぱりそのところは避けられないんじゃないかなあというふうに思っておりますので、知・徳・体というか、そういったものについてはこの総合教育会議の中では、大綱の中ではぜひ入れていただきたいというふうに私は思っておりますので、一度また御検討いただきたいというふうに思っています。

それでは、皆様からいろいろと御意見をいただきました。先ほども言いましたように、また何かありましたらお知らせください。

事務局からは何かありますか。

教育部長 それでは、大綱につきましてはきょうの意見を反映させていただき、また素案に少し盛り込みたいと思います。

目玉があってよいのではないかということで、その中では防災教育であったり、スポーツだとなぎなたの普及ということになるのでしょうか。それから、市長の方からの話であります知・徳・体というのを盛り込んでおくということにしたいと思います。

それから、さまざまな意見交換をしていただきました。今後、この総合会議においては、学校の施設整備や児童・生徒の安全に関すること、それからスポーツや文化の振興などについて、さまざまな内容を議題とした会議として開催していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

市長 それでは、これをもちまして第2回目の総合教育会議を閉じたいと思います。ありがとうございました。お疲れさまでした。